

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 83
2023.3

TOPICS

1

ブルキナファソ出身のアブゼ・ジグマ王女に名誉博士称号を授与



本学は2月22日、ブルキナファソ出身のアブゼ・ジグマ王女に岡山大学名誉博士の称号を授与しました。

アブゼ・ジグマ王女は、国連専門家およびアドバイザーとして、地球環境問題、気候変動、持続可能な開発のための教育(ESD)、持続可能な開発目標(SDGs)、エネルギー政策等について20年以上の国際的なハイレベルでの経験を有しており、ピラミッドの底辺の人々のエンパワーメント、インフォーマルセクターの重要性の認知度向上、開発途上国の女性や若者の潜在能力を引き出すための事業など、有色人種の女性のロールモデルとして世界的に知られている国際的な要人です。このたび、学術文化の発展への貢献が特に顕著であるとして、ESDに関するアジアで初めてのユネスコチェアを設置している本学から、名誉博士の称号を授与することとなりました。

今回の称号授与をきっかけに、アブゼ・ジグマ王女との連携強化を通して、地域と地球全体のウェルビーイングの向上に貢献してまいります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11973.html



TOPICS

2

ファジアーノ岡山と包括連携に関する協定を締結

本学は3月7日、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ及び一般社団法人ファジアーノ岡山スポーツクラブと、それぞれの有する資源の相互利用と緊密な人的交流を通して、岡山県及び関連地域の活性化並びに両者の一層の発展に資することを目的として、包括連携協定を締結しました。

調印式では、榎野博史学長、ファジアーノ岡山の北川真也社長が協定書に署名し、固い握手を交わしました。榎野学長は「本協定が、岡山地域の活性化と人材育成を通じたSDGs達成への貢献に繋がれば」と話し、北川社長は「岡山大学とファジアーノのよいところを掛け合わせることで、地域課題を解決していく」と述べました。

この協定によって、教育、研究、医療及び事業に係る人的資源並びに人材の相互活用を促進するとともに、施設の相互利用、整備・管理、また、地域のスポーツ振興とスポーツを通じた地域課題の解決、ひいては、県民の健康増進に貢献してまいります。参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11940.html



Pick up!

サッカー部の高谷依吹選手が、岡山県学生リーグベストイレブンに選出されました！

2月12日に、岡山サッカーリーグの2022年度表彰式が行われ、本学サッカー部の高谷依吹さん(工学部2年)が「岡山県学生リーグベストイレブン」に選出されました。表彰式では、各リーグの優勝チームやベストイレブンに輝いた選手らの活躍を称え、表彰状や記念の盾、メダルが授与されました。岡山県学生リーグのベストイレブンは、新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの選出となりました。

本学から選出された高谷さんは、サッカー強豪校である熊本県大津高校出身で、現在は本学サッカー部でMF(ミッドフィルダー)を務めています。今回のベストイレブン選出を受け、「この度はベストイレブンに選出され、大変嬉しく思います。この栄えある賞の名に恥じぬよう努力し、今年こそは、中国リーグ1部昇格をチーム全員で勝ち取ります」と今後の意気込みを話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11921.html



TOPICS

3

岡山大学部局長等セッション「不易流行の大学経営」を開催

本学は3月11日、大学執行部並びに新任を含む各部局長等が一堂に会して、本学の持続的発展を考える上で重要な事項について、現状の認識と今後の方向性を共有することを目的とした部局長等セッションを開催しました。

次期学長的那須理事は講演で「皆さんには不易流行という言葉をも自分事として考えてほしい。私も折に触れて『皆さんにとって、不易流行とは何ですか』ということ問い続けていきたい。大学経営における不易とは、マルチステークホルダーの持続的で多様な幸せの実現を追求すること。流行とは、社会情勢を見極め、国立大学法人として政策や地域の思いを先取りし先導する改革・人材育成・教育研究である」と思いを語りました。

参加者総勢44人によるワークショップでは「皆さんにとって不易流行とは何か、所属する部局の不易流行とは何か」をテーマに、それぞれが考える不易流行について活発な意見交換が行われました。

現執行部の取り組んできた内容と、今後取り組むべき課題について理解し、次年度に向けて全学の思いを一つにする、大変有意義な会となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11974.html



TOPICS

4

自然科学研究科の朱俊傑さんと環境生命科学科の難波匠太郎さんが仁科賞を受賞



岡山県出身の物理学者、故仁科芳雄博士の偉業を顕彰し、人物・成績ともに優秀な県内在学の理工系大学院修了予定者に贈られる「令和4年度仁科賞」の授与式が3月15日、岡山県庁で行われ、本学大学院自然科学研究科博士後期課程の朱俊傑さんと大学院環境生命科学科博士前期課程の難波匠太郎さんが、伊原木隆太知事から賞状とトロフィーを手渡されました。

産業創成工学専攻の朱さんは「漏洩同軸ケーブルを用いた無線通信システムのための超高精度位置推定法の発明」で、また、生物資源科学専攻の難波さんは「無害なたんぱく質の大量生産による細胞毒性メカニズムの解明」で成果をあげ、本賞を受賞しました。

仁科博士は「日本の現代物理学の父」と称され、本学の前身の一つである第六高等学校出身。新制岡山大学や理学部創設に尽力するなど、本学とも深い関わりがあることが知られています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11993.html

PRESS
RELEASE

世界初！極性転換スイッチを利用し、鎖状インドール5量体の合成に成功！

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(薬)薬品合成学分野の徳重慶祐(博士前期課程2年)、山城寿樹(博士課程4年)、同学術研究院医歯薬学域(薬)精密有機合成化学分野の阿部匠講師は、これまでに合成例の無い鎖状インドールの5量体合成に成功しました。成功の鍵は、1) 1位にメトキシ基を持つN-メトキシインドールを用いることで1位の極性転換が行えることの発見、2) 反応により生成する生成物は通常の極性に戻ることで、これらを順次利用した点です。今後、インドール多量体やその誘導体について生理活性や機能の探索が期待されます。

本研究成果は、2023年3月3日、スイスの科学誌「Chemistry」に掲載されました。本手法を用いた新たな機能性分子や天然物の合成が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1069.html

